

あぶしん景況レポート

2021年10～12月期



あぶくま信用金庫
総合企画部

Vol.6 2022.1 発行

当地区の概況

【業種別天気図】

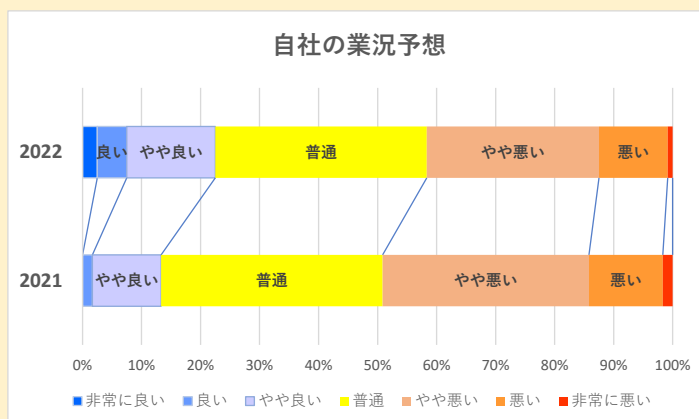
調査対象:120社

業種別	総合	製造業	卸売業	小売業	サービス業	建設業	不動産業	総合 D.I.
2021年 7～9月								▲ 28.3
2021年 10～12月								▲ 20.0
2022年 1～3月 (見通し)								▲ 11.7

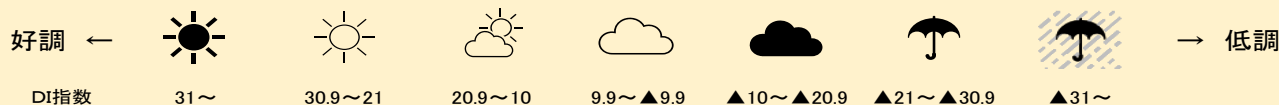
- 2021年10～12月期(今期)の業況判断 D. I. は▲20.0 と、前期比 8.3 ポイントの改善となった。製造業の D. I. が 10.0 と当金庫調査開始から初めてプラスに転じ、総合 D. I. に大きく影響した。また、製造業の D. I 改善幅は前期比 45.0 ポイントと調査開始後最大の改善幅となった。
- 2022年1～3月期(来期)の予想業況判断 D. I. は▲11.7 と、今期比 8.3 ポイントの改善を見込んでいる。業種別では製造業が 10 ポイント、卸売業が 22.2 ポイントの改善を見込んでいる。

特別調査 - 2022年(令和4年)の経営見通し -

- 自社の業況予想について、「普通」と回答する割合が最も高くなった。新型コロナウイルスの感染者が減少してきたことで、前回よりも「良い」と回答した割合が増加した一方、変異株の出現等により警戒感を持った企業も多く見られた。



【業況判断天気図】



業況判断 D. I 指数は「良い・やや良い」と回答した割合から「悪い・やや悪い」と回答した割合を差し引いて算出した数値です。

詳しくは<あぶしん>
各支店へ!



携帯・スマートフォンの方はQRコードを!
情報満載、ホームページをご覧ください。

あぶしん <http://www.abukuma.co.jp/>



製造業

業況判断D.I.

調査対象：20社

		良い	やや良い	普通	やや悪い	悪い	D.I.
今期 (10-12月)	予想	5.0	25.0	20.0	40.0	10.0	▲ 20.0
	実績	5.0	45.0	10.0	25.0	15.0	10.0
来期 (1-3月)	予想	0.0	40.0	40.0	10.0	10.0	20.0

業況判断D.I.は今期(実績)10.0となり、調査開始から初めてプラスに転じた。一部からは、コロナ禍以降、受注が徐々に回復している、新規取引先が増加したといった声が聞こえており、D.I.改善につながったとみられる。

○経営課題

(単位：%、複数回答)

項目	今期	前期
1 売上の停滞・減少	45.0%	50.0%
2 原材料高	40.0%	45.0%
3 人手不足	40.0%	30.0%

○重点経営施策

(単位：%、複数回答)

項目	今期	前期
1 経費を節減する	45.0%	45.0%
2 販路を広げる	40.0%	45.0%
3 人材を確保する	35.0%	40.0%

卸売業

業況判断D.I.

調査対象：18社

		良い	やや良い	普通	やや悪い	悪い	D.I.
今期 (10-12月)	予想	5.6	11.1	44.4	27.8	11.1	▲ 22.2
	実績	11.1	0.0	44.4	38.9	5.6	▲ 33.3
来期 (1-3月)	予想	5.6	16.7	44.4	27.8	5.6	▲ 11.1

業況判断D.I.は今期(実績)▲33.3となり、今期(予想)を11.1ポイント下回った。新型コロナウイルスの影響は弱まりつつあるが、売上回復には時間がかかるという声があり、今後もD.I.は低調な推移が見込まれる。

○経営課題

(単位：%、複数回答)

項目	今期	前期
1 売上の停滞・減少	55.6%	66.7%
2 同業者間の競争の激化	44.4%	44.4%
3 利幅の縮小	33.3%	33.3%

○重点経営施策

(単位：%、複数回答)

項目	今期	前期
1 販路を広げる	50.0%	66.7%
2 情報力を強化する	38.9%	38.9%
3 経費を節減する	33.3%	50.0%

小売業

業況判断D.I.

調査対象：21社

		良い	やや良い	普通	やや悪い	悪い	D.I.
今期 (10-12月)	予想	0.0	9.5	38.1	28.6	23.8	▲ 42.9
	実績	4.8	4.8	33.3	47.6	9.5	▲ 47.6
来期 (1-3月)	予想	0.0	4.8	52.4	33.3	9.5	▲ 38.1

業況判断D.I.は今期(実績)▲47.6、来期(予想)▲38.1と厳しい状況が続いている。前回経営課題としてあがった「販売商品の不足」に加え、今回あがった「仕入先からの値上げ要請」が追い打ちをかけているとみられる。

○経営課題

(単位：%、複数回答)

項目	今期	前期
1 売上の停滞・減少	47.6%	57.1%
2 人手不足	42.9%	19.0%
3 仕入先からの値上げ要請	28.6%	14.3%

○重点経営施策

(単位：%、複数回答)

項目	今期	前期
1 経費を節減する	28.6%	42.9%
1 人材を確保する	28.6%	14.3%
3 店舗・設備を改装する	19.0%	19.0%

サービス業

業況判断D. I.

調査対象：20社

		良い	やや良い	普通	やや悪い	悪い	D. I.
今期 (10-12月)	予想	0.0	25.0	35.0	25.0	15.0	▲ 15.0
	実績	10.0	10.0	40.0	25.0	15.0	▲ 20.0
来期 (1-3月)	予想	5.0	10.0	40.0	35.0	10.0	▲ 30.0

業況判断 D. I. は今期(実績) ▲20.0、来期(予想)は▲30.0となった。福島県のまん延防止等重点措置は解除されたが、売上の回復は緩やかであり、人件費の増加といった要因もあって D. I の改善には至っていない。

○経営課題

(単位：%、複数回答)

項目	今期	前期
1 売上の停滞・減少	50.0%	50.0%
2 人件費の増加	40.0%	30.0%
3 人手不足	25.0%	30.0%
3 利幅の縮小	25.0%	25.0%

○重点経営施策

(単位：%、複数回答)

項目	今期	前期
1 販路を広げる	35.0%	45.0%
1 経費を節減する	35.0%	45.0%
1 人材を確保する	35.0%	30.0%

建設業

業況判断D. I.

調査対象：21社

		良い	やや良い	普通	やや悪い	悪い	D. I.
今期 (10-12月)	予想	4.8	9.5	52.4	28.6	4.8	▲ 19.0
	実績	4.8	14.3	42.9	33.3	4.8	▲ 19.0
来期 (1-3月)	予想	9.5	9.5	42.9	38.1	0.0	▲ 19.0

今期の業況判断 D. I. は、前回同様▲19.0となった。経営課題としてあがった「材料価格の上昇」が前回の2倍となったほか、燃料費の高騰が収益を圧迫していることなどが、D. I の低迷に繋がっているとみられる。

○経営課題

(単位：%、複数回答)

項目	今期	前期
1 売上の停滞・減少	57.1%	38.1%
2 人手不足	52.4%	52.4%
3 材料価格の上昇	33.3%	14.3%

○重点経営施策

(単位：%、複数回答)

項目	今期	前期
1 販路を広げる	66.7%	52.4%
2 経費を節減する	57.1%	23.8%
3 人材を確保する	52.4%	66.7%

不動産業

業況判断D. I.

調査対象：20社

		良い	やや良い	普通	やや悪い	悪い	D. I.
今期 (10-12月)	予想	5.0	5.0	65.0	25.0	0.0	▲ 15.0
	実績	5.0	5.0	70.0	20.0	0.0	▲ 10.0
来期 (1-3月)	予想	5.0	20.0	60.0	15.0	0.0	10.0

業況判断 D. I. は今期(実績) ▲10.0 となり、今期(予想)を 5.0 ポイント上回った。来期(予想)は今期実績比で 20.0 ポイントの改善を見込んでいることから、新年度に向けた引っ越し等への期待感が感じられる。

○経営課題

(単位：%、複数回答)

項目	今期	前期
1 売上の停滞・減少	35.0%	40.0%
2 同業者間の競争の激化	30.0%	25.0%
3 利幅の縮小	25.0%	30.0%

○重点経営施策

(単位：%、複数回答)

項目	今期	前期
1 経費を節減する	45.0%	30.0%
2 情報力を強化する	20.0%	25.0%
3 宣伝・広告を強化する	15.0%	15.0%
3 不動産の有効活用を図る	15.0%	10.0%

全国の概況

【全国業種別天気図】

回答社数:13,905社

		総合	製造業	卸売業	小売業	サービス業	建設業	不動産業	総合 D.I.
全国	2021年 7~9月	☂	☂	☂	☂	☂	☁	☁	▲ 29.1
	2021年 10~12月	☂	☂	☂	☂	☂	☁	☁	▲ 19.7
	2022年 1~3月 (見通し)	☂	☂	☂	☂	☂	☁	☁	▲ 21.1
東北	2021年 10~12月	☂	☂	☂	☂	☂	☁	☁	▲ 21.5

- 全国の2021年10~12月期(今期)の業況判断D.Iは▲19.7、前期比9.4ポイント改善と、厳しい水準の中で3四半期続けての改善となった。2022年1~3月期(来期)の予想業況判断D.I.は▲21.1と今期実績比1.4ポイントの低下を見込んでいる。
- 東北地区の2021年10~12月期(今期)の業況判断D.Iは▲21.5と、前期比11.5ポイントの大幅な改善となったが、2022年1~3月期(来期)の予想業況判断D.I.は▲31.8となり、今期実績比10.3ポイント悪化する見通しとなった。

特別調査 - 2022年(令和4年)の経営見通し -

- 2022年の自社の業況見通しについては、「良い」と回答した割合が15.3%、「悪い」と回答した割合が42.4%となり、「良い」-「悪い」は▲27.1となった。1年前の調査と比べて31.1ポイントの大幅な改善となったが、コロナ前の水準は下回った。
- 従業員規模別では、規模が大きいほど強気の傾向が見られた。業種別では、不動産業や製造業で強気の見通しとなった。



全国の調査員からのコメント

- 円安により仕入価格上昇。機械化や流通経路の見直しなどを検討中。(土木資材卸売、三重県)
- 原材料の価格高騰を受け、販売価格をやむなく引き上げた。(洋菓子製造、千葉県)
- 業界の人手不足が深刻。廃業する同業者もいる。現在は受注制限している。(自動車板金、新潟県)

【調査要領】

1. 調査時期 2021年12月
2. 調査方法 原則として、全国の信用金庫営業店の調査員による面接聴取りによる感触調査
3. 分析方法 業況判断D.I.は、「良い・やや良い」とした企業が全体に占める割合と、「悪い・やや悪い」とした企業の割合との差(判断D.I.)を中心に分析を行った。
4. 対象企業 回答企業のうち従業員20人未満の企業が約7割を占めるなど、比較的小規模な企業が主体となっている。

本レポートは、標記時点における情報提供を目的としています。したがって、投資等についてはご自身の判断によってください。また、本レポート掲載資料は、信頼できると考える各種データに基づき作成していますが、正確性および完全性を保証するものではありません。